

# 事業実施報告書

法人名 特定非営利活動法人 日本語教育ネットワーク

事業名	「地域サテライト日本語クラス」事業
助成事業の種類	SDGs推進事業・パートナーシップ分野
1. 事業の目的	<p>地域外国籍住民の日本語能力の向上と社会生活への適応を図る。</p> <p>日本語クラスの教室を外国籍住民と地域住民の交流の場とし、住民の多文化共生意識の向上を図る。</p> <p>多くの商店がシャッターを下ろしている角栄商店街に教室を設け、商店街の賑わいの醸成に寄与する。</p>
2. 事業で取り組んだ地域や社会の課題	<p>日本語クラスを開設し、地域外国籍住民の日本語能力の向上と社会生活への適応を図った。</p> <p>川越グローバルフェスティバル、地元自治会の凧揚げ大会への参加などを通じて外国籍住民と地域住民の交流を促進し、住民の多文化共生意識の向上を図った。</p> <p>日本語クラスを開設し、学習者が通うことにより、商店街の賑わいの醸成に寄与した。歩道を歩く人々がよくクラスの様子を見ていた。</p>
3. 取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	<p>日本語クラスの開設</p> <p>霞ヶ関地区は、多くの留学生がいる東京国際大学があり、またネパール人等が経営する外国料理店が多数あるため、外国籍住民が多く居住し、川越市の中でも日本語学習への需要が多い地区である。夏休み後の9月に霞ヶ関クラスを開設し、当初は水曜日、金曜日のそれぞれ午後3時半から6時半までの3時間とした。11月からは、通学者、勤務者などの便宜を考え、金曜日を日曜日に変更し、時間を2時から5時までとした。開設当初は、学習者が少ない日もあったが、広報、口コミなどにより、現在では時間制限が必要な状況になっている。</p> <p>学校の授業についていきたい、日本語能力試験を受けたい、など目的意識を持った学習者が多く、6か月という短い期間ではあったが、日本語能力の一定の向上がみられた。</p> <p>また、会場がこじんまりしていてアットホームな雰囲気があり、指導者と学習者の交流のほか、学習者どうしの会話もなされ、各国の国際交流の場となった。（具体的内容は4の成果に記載）</p> <p>川越グローバルフェスティバル2022への参加</p> <p>8月27日（土）に霞ヶ関商店街で、川越青年会議所主催による川越市制100周年記念事業として川越グローバルフェスティバル2022が開催され、通りを通行止めにして、ステージで</p>

のダンスや演奏の披露、各国料理の出店などで大きな賑わいをみせた。

当 NPO ではブースを出し、日本で盛んな折り紙の教室、漢字圏以外ではあまりなじみのない習字の教室を設置し、中国人親子、ベトナム人親子、インドネシア、ネパール人親子など外国籍住民約 50 人に好評を博した。

日本の家庭料理による食事会（11月20日）

日本語クラスの会場が、通常は喫茶や軽食を摂れる店である特色を生かし、日本の家庭料理による食事会を開催した。

20名ほどの学習者と地元住民にてんぷら、茶わん蒸し、みそ汁などを味わってもらうとともに、参加者の各国料理の話題に花が咲いた。

自治会の凧揚げ大会への参加（1月22日）

3人のネパール児童、地元タイ人会社員等と凧の組み立てから始まり、完成後、会場の広場で凧揚げをした。

当日は風があまりなく、凧揚げに向いた日ではなかったものの、学習者は広場を走って凧をあげ、伝統的な遊びを大いに楽しんでいた。

時期	内容
7月	日本語クラスの開設準備
8月	青年会議所主催川越グローバルフェスティバルへの参加、開設準備
9月	日本語クラス
10月	日本語クラス
11月	日本語クラス、教室で日本の家庭料理による食事会を実施
12月	日本語クラス
1月	日本語クラス、自治会の凧あげ大会へ参加
2月	日本語クラス

広報実績について

学校への広報

近隣の中学校（2回）及び東京国際大学（2回）訪問し、日本語クラスの開設を説明した。

インターネットでの広報

当法人のホームページ及び Facebook で広報した。

掲示

川越市国際交流センター、近隣のスーパーマーケットなどにチラシを掲示した。

看板

日本語クラスの外の歩道に、目立つ看板を設置した。

<p>4. 事業実施により達成した成果の具体的な内容</p>	<p style="text-align: center;">日本語クラスの実施結果は次の表のとおり</p> <table border="1" data-bbox="475 275 1414 658"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施回数</td> <td>9月から2月まで49回</td> </tr> <tr> <td>学習者数、国籍</td> <td>14人(ベトナム、フィリピン、タイ、ネパール、インド、キルギス、イラン、アメリカ)</td> </tr> <tr> <td>延べ人数</td> <td>140人</td> </tr> <tr> <td>学習者の内訳</td> <td>小学生、中学生、大学生、大学准教授、技能実習生、会社員、主婦</td> </tr> <tr> <td>学習者のレベル</td> <td>初心者、初級、中級、上級</td> </tr> </tbody> </table> <p>川越市の日本語教室は川越国際交流センターなど市の中心部に集中し、霞ヶ関地区は外国籍の住民が多いにもかかわらず、教室に通う機会がないか、または電車に乗り川越駅近くにある国際交流センターなどに通っていた。</p> <p>霞ヶ関地区に教室を設置できたことにより、徒歩や自転車で通うことができるようになり、学習者の利便が大いに向上した。このことで、定期的かつ確実に通う学習者が増加し、日本語能力の向上に寄与している。</p> <p>また、小学生、中学生については、学校において日本語指導者がついていない場合があるが、時間が限られているので、それを補完する役割も担った。</p> <p style="text-align: center;">地域および地域住民との交流など</p> <p>川越グローバルフェスティバルへの参加、凧揚げ大会への参加により、地域及び地域住民との交流が図られるとともに、食事会により、日本の家庭料理を味わってもらうことができた。</p>	項目	内容	実施回数	9月から2月まで49回	学習者数、国籍	14人(ベトナム、フィリピン、タイ、ネパール、インド、キルギス、イラン、アメリカ)	延べ人数	140人	学習者の内訳	小学生、中学生、大学生、大学准教授、技能実習生、会社員、主婦	学習者のレベル	初心者、初級、中級、上級
項目	内容												
実施回数	9月から2月まで49回												
学習者数、国籍	14人(ベトナム、フィリピン、タイ、ネパール、インド、キルギス、イラン、アメリカ)												
延べ人数	140人												
学習者の内訳	小学生、中学生、大学生、大学准教授、技能実習生、会社員、主婦												
学習者のレベル	初心者、初級、中級、上級												
<p>5. 費用面での工夫</p>	<p>1日3時間の学習時間を、1時間半ずつ2分割して学習者に割り当てることにより、少ない講師で多くの学習者を指導することができるようにして人件費を節約した。</p> <p>教材用テキストを、皆で内容、必要性などを評価し、厳選して購入するようにした。</p>												

<p>6. 地域社会への還元について</p>	<p>東京国際大学の外国籍の学生や先生は、講師を含め、地元の人々と触れ合う機会があまりないが、日本語クラスを通じてこれまでにない交流が図られた。日本語学習テキストをトピックに多様な背景を持つ留学生や講師の個性が引き出され人間的な交流ができた。日本語クラスは1回だけの行事より長く続く関係にもなるので地域の多文化共生に資する可能性が高い。</p> <p>霞ヶ関に居住する外国籍の学習者にとっては、日本語クラスが様々な地域の情報を得る場となっており、地域社会とのつながりを持つことへの応援となっている。</p> <p>霞ヶ関商店街で音楽家や表現者の居場所づくりを行っているお店や団体とつながれたり、FBでPRしたところ、地元の人が日本語ボランティアでクラスに参加したり、ネットワークが拡大した。</p>
<p>7. 来年度以降どう事業を継続し発展させていくか</p>	<p>語学の習得には、長い年月がかかるので、この霞ヶ関日本語クラスは今後も継続していく必要があり、学習者に対して、安定してクラスを運営していく義務を負っているものとする。したがって、来年度以降も指導内容や環境をさらに充実し、継続する計画である。</p> <p>地元東京国際大学の場所や智恵をお借りして地域外国籍住民との共生社会を実現していきたい。そのことで大学生ボランティア募集への声かけがスムーズになり「外国籍住民の定住化」への課題に対しゼミなどと協働して活動していく可能性がある。</p> <p>現在は、スペースの関係で、一度に指導できる学習者は4名程度であるが、これから、学習者の急増は間違いないので新たな場所だけでなく講師の確保をも図っていく考えである。</p>